

## 花園天皇関係史料・研究文献目録稿

坂口太郎・芳澤 元

### 凡 例

- 本目録は花園天皇（永仁5年〔1297〕～貞和4年〔1348〕。以下花園と略す）に関わる明治以後に公開された史料（複製・影印・翻刻）および研究文献の内容別目録である。配列は発表年次順とし、同一の研究者が執筆した文献はまとめて配置した。復刻・復刊・再収録については→記号で示した。
- A. 史料には、花園に関する基本史料・著作の刊本を挙げた。
- B. 伝記には、花園に関する全般的な伝記を挙げた。主要な辞典の項目も挙げたが、原則として執筆者が記名されているものに限った。
- C. 日記Ⅰには、『花園天皇日記（宸記）』（以下『日記』と略す）の解題、原本・内容・人物比定などに関する基礎的研究、索引を挙げた。
- D. 日記Ⅱには、『日記』に見える表現や語彙に関する研究を挙げた。
- E. 手跡には、花園の書風や消息に関する研究・史料紹介を挙げた。
- F. 政治には、鎌倉時代後期（特に花園即位以後）の政治史に関する主要な通史・総論、公武関係や訴訟制度などに関する個別研究を挙げた。個別研究については、原則として『日記』を主要な材料として用いた研究に限ったが、若干それ以外の重要な研究も含めた。
- G. 学問には、花園とその周辺における漢学を中心とした学問研鑽や著作『誠太子書』および持明院統の文庫に関する研究を挙げた。
- H. 仏教には、花園の天台・律・禪などに対する信仰および著作、仏事に関する研究を挙げた。花園に関わりの深い継徒（特に天台では慈嚴、律では如円、禪では月林道皎・宗峰妙超・関山慧玄）に関する主要な研究も含めた。
- I. 和歌には、花園の和歌や『玉葉和歌集』・『風雅和歌集』の歌風・編

纂過程などに関する研究を挙げた。また、花園に大きな影響を与えた京極為兼に関する主要な研究も挙げた。

- J. 音楽には、花園や持明院統の音楽に関する研究を挙げた。
- K. 絵画・肖像には、花園の画才や肖像に関する研究を挙げた。
- L. 住宅には、花園の居住した御所（里内裏・院御所）に関する研究を挙げた。
- M. 家族には、花園の家族である伏見天皇・後伏見天皇・光厳天皇・永福門院・広義門院に関する主要な研究を挙げた。
- N. 荘園には、持明院統や花園の所有した荘園（長講堂領・室町院領など）に関する研究を挙げた。
- O. その他には、以上の分類に含まれない内容に関する研究を挙げた。花園を主題としたものでなくても、花園に関係する人物の研究や、『日記』を主要な材料として用いた研究なども挙げた。
- P. 欧文論文には、花園に関する海外の研究を一括して挙げた。

### A. 史 料

#### 花園天皇日記

列聖全集編纂会編『列聖全集』宸記集 下巻「花園院天皇宸記」（列聖全集編纂会、1917年4月）

笹川種郎（臨風）編・矢野太郎校訂『史料大成』続篇 第34巻～第35巻「花園天皇宸記」（内外書籍、1938年9月、12月→増補史料大成刊行会編『増補史料大成』第2巻～第3巻、臨川書店、1965年8月）

村田正志校訂『史料纂集』古記録編「花園天皇宸記」全4巻〔第3巻まで既刊〕（続群書類従完成会、1982年2月～1986年12月）

\* 今江廣道「村田正志博士校訂『花園天皇宸記』第一巻」（『国士館大学』人文学会紀要』第15号、1983年1月）

村田正志編『和譯花園天皇宸記』全3巻（続群書類従完成会、1998年10月～2003年3月）

宮内庁書陵部編『花園院宸記』カラーコロタイプ複製全35巻・解題・釈

文 [第23巻まで既刊] (思文閣出版、1992年3月～2006年5月)

## その他

東京帝国大学文科大学史料編纂掛編『大日本史料』第6篇之12、貞和4年11月11日条「花園法皇萩原殿二崩ジ給フ、光厳上皇因リテ御幸アラセラル」(東京帝国大学、1913年3月)

東京大学史料編纂所編『花押かがみ』第6巻 南北朝時代2「花園天皇」(吉川弘文館、2004年6月)

列聖全集編纂会編『列聖全集』御撰集第6巻「花園天皇 誠太子書・大徳寺に賜へる宸翰・大徳寺妙超に賜へる宸翰・御処分状・長福寺に賜へる宸翰・妙心寺慧玄に賜へる宸翰(二通)・学道之御記・法華品釈」(列聖全集編纂会、1917年1月)

辻善之助編『聖徳余光』「花園天皇」(紀元二千六百年奉祝会、1940年11月)

帝国学士院編『宸翰英華』乾・第1冊「花園天皇」(紀元二千六百年奉祝会、1944年12月→復刻版、思文閣出版、1988年10月)

宮内庁書陵部編『花園天皇宸翰集 誠太子書・学道之御記・御処分状』コロタイプ複製全3巻・解題・釈文(吉川弘文館、1977年4月)

村田正志『村田正志著作集』第7巻風塵録(思文閣出版、1986年8月)

村田正志編『花園天皇遺芳』(楊岐寺、1995年11月。第3版2005年3月より別冊“The Legacy Of Emperor Hanazono”を付す)

次田香澄校訂『玉葉和歌集』(岩波文庫30-137-1、岩波書店、1944年7月)

次田香澄・岩佐美代子編『中世の文学 風雅和歌集』(三弥井書店、1974年7月)

岩佐美代子編『玉葉和歌集全注釈』全4巻(笠間注釈叢刊20～23、笠間書院、1996年3月～1996年12月)

岩佐美代子編『風雅和歌集全注釈』全3巻(笠間注釈叢刊34～36、笠間書院、2002年12月～2004年3月)

日本大蔵経編纂会編『日本大蔵経』第28巻 経蔵部 法華部章疏2「御註法

華経品釈」(日本大蔵経編纂会、1917年10月→財団法人鈴木学術財団編『増補改訂日本大蔵経』第24巻 経蔵部 法華部章疏4、財団法人鈴木学術財団、1974年3月)

## B. 伝記

松崎求己「花園院」(『歴史地理』第5巻第9号～第12号、1903年9月～12月)

鷲尾順敬編『玉鳳煥采』(正法山妙心寺、1910年5月→『藍山全集』第1巻 日本禅宗史の研究、教典出版、1945年10月)

辻善之助「花園天皇」(同氏『人物論叢』雄山閣、1925年9月→同氏『日本文化史』別録 第2巻、春秋社、1953年6月)

粟野秀穂「花園上皇」(『史蹟と古美術』第12巻第5号、1934年5月)

鎌田禪商編『花園法皇の御事蹟と妙心寺』(大本山妙心寺教務部、1943年10月)

澤口泰憲編『花園天皇の御芳躅』(妙心寺開基花園天皇六百年御聖諱記念大法会局、1945年4月)

\* 中村直勝「花園天皇御伝」(『花園天皇の御芳躅』→『中村直勝著作集』第6巻 歴代天皇紀、淡交社、1978年8月)

岩橋小彌太『花園天皇』(人物叢書99、吉川弘文館、1962年11月→新装版、1990年8月)

網野善彦「花園天皇」(永原慶二編『人物 日本の歴史』第4巻 鎌倉と京都、読売新聞社、1966年3月→新装版、1972年10月)

水戸部正男「花園天皇」(肥後和男編『歴代天皇紀』秋田書店、1972年11月)

小林圓照・雄山学人「花園法皇・日峰禅師関連年表-初期妙心寺史年表考-」(『禅学研究』第71号、1993年2月)

臨済宗妙心寺派教化センター「妙心寺の開基としての花園法皇のご事跡・略伝」(『臨済宗妙心寺派教化センター』研究報告』第5号、1993年5月)

## 日本史辞典

前田一良「花園院宸記」・執筆者不明「花園天皇」・小笠原長和「花園天皇

- 御影」(日本歴史大辞典編集委員会編『日本歴史大辞典』第15巻、河出書房、1959年3月→増補改訂版第8巻、河出書房新社、1969年6月)
- 杉橋隆夫「花園天皇」(京大日本史辞典編纂会編『新編 日本史辞典』東京創元社、1990年6月)
- 宮崎康充「花園天皇」・飯倉晴武「十楽院上陵」(国史大辞典編集委員会編『国史大辞典』第11巻、吉川弘文館、1990年9月→米田雄介編『歴代天皇・年号事典』吉川弘文館、2003年12月／平野邦雄ほか編『日本古代中世人名辞典』吉川弘文館、2006年11月)
- 宮崎康充「花園天皇宸記」(国史大辞典編集委員会編『国史大辞典』第11巻、吉川弘文館、1990年9月→加藤友康ほか編『日本史文獻解題辞典』吉川弘文館、2000年5月)
- 網野善彦「花園天皇」・「花園天皇日記」(青木和夫ほか編『日本史大事典』第5巻、平凡社、1993年11月)
- 櫻井 彦「花園天皇」・田沼睦「花園天皇日記」(永原慶二ほか編『日本歴史大事典』第3巻、小学館、2001年3月)

#### 文学辞典

- 次田香澄「花園天皇」(伊藤嘉夫ほか編『和歌文学大辞典』明治書院、1962年11月)
- 次田香澄「花園天皇」・「花園天皇宸記」(日本古典文学大辞典編集委員会編『日本古典文学大辞典』第5巻、岩波書店、1984年10月)
- 遠藤好英「花園院宸記」(佐藤喜代治編『国語学研究辞典』東京堂出版、1979年11月)
- 岩佐美代子「花園天皇」・「花園院宸記」(犬養廉ほか編『和歌大辞典』明治書院、1986年3月)
- 岩佐美代子「花園天皇宸記」(石原昭平ほか企画編集・岩佐美代子ほか編集委員『日記文学事典』勉誠出版、2000年2月)
- 鹿目俊彦「花園天皇」・「花園天皇宸記」(大曾根章介ほか編『日本古典文学大事典』明治書院、1998年6月)
- 執筆者不明「花園天皇」(市古貞次監修『国書人名辞典』第4巻、岩波書店、

1998年11月)

#### 人名辞典

- 芝 葛盛「花園天皇」(平凡社編『新撰大人名辞典』第5巻、平凡社、1938年3月→改題復刻版『日本人名大事典』第5巻、1979年7月)
- 芳賀幸四郎「花園天皇」(桑原武夫ほか編『世界伝記大事典』日本・朝鮮・中国編 第4巻、ほるぷ出版、1978年7月)
- 川島孝一「花園天皇」(安田元久編『鎌倉・室町人名事典』新人物往来社、1985年11月)
- 本郷和人「花園天皇」(朝日新聞社編『朝日 日本歴史人物事典』朝日新聞社、1994年11月)

#### C. 日記 I

##### 解題・原本研究

- 列聖全集編纂会「花園天皇」(同編纂会編『列聖全集』皇室御撰解題、列聖全集編纂会、1917年6月)
- 和田英松「花園天皇」(同氏『皇室御撰之研究』明治書院、1933年4月→復刻版、国書逸文研究会、1986年7月)
- 宮内庁書陵部「花園院宸記」(同編『図書寮典籍解題』歴史篇、養徳社、1950年2月)
- 村田正志「花園天皇宸記の全容と形態」(『季刊 ぐんしょ』第7号、1990年1月)
- 村田正志「花園天皇宸記」(『日本歴史「古記録」総覧』古代・中世篇、新人物往来社、1990年12月)
- 米田雄介「鎌倉時代の天皇の日記 花園天皇」(同氏『歴代天皇の記録』続群書類従完成会、1992年5月)
- 八嶋正治「『花園院宸記』成巻について」(『日本歴史』第537号、1993年2月)
- 飯倉晴武「花園天皇宸記」(同氏『日本史小百科 古記録』東京堂出版、1998年9月)

総論・索引・人名比定など

辻善之助「宸翰御日記の一二に就て」(『国史回顧会紀要』第1号、1929年10月→森脇美樹編『国史回顧叢書』第1冊、文明協会、1936年7月)

和田英松「御歴代の御日記に就いて」(『日本文学講座』第5巻、改造社、1934年12月→同氏『国史説苑』明治書院、1939年3月)

志賀 剛「花園天皇宸記の研究」(『史潮』第11年第1号、1941年5月)

大内摩耶子「花園院宸記の文学性」(『大阪府立大学紀要 人文・社会科学』第8号、1960年3月)

村田正志「『花園天皇宸記』を読む」(岩橋小彌太『花園天皇』初版付録、人物叢書99、吉川弘文館、1962年11月)

岩佐美代子「天皇の日常と思索-『花園院宸記』-」(国文学研究資料館整理閲覧部参考室編『国文学研究資料館講演集』第5集 日記と文学、国文学研究資料館、1984年3月)→「『花園院宸記』-天皇の日常と思索-」(同氏『宮廷に生きる-天皇と女房と-』、古典ライブラリー8、笠間書院、1997年6月)

岩佐美代子「花園天皇宸記読解管見」(『季刊 ぐんしょ』第46号、1999年10月)

岩佐美代子「花園天皇宸記の『女院』」(『日本歴史』第639号、2001年8月)

岩佐美代子「臨場感の魅力-複製『花園院宸記』の意義-」(『鴨東通信』第46号、2002年6月)

佐々木令信「『花園天皇日記』仏教総索引並に解説」(中世寺院史研究会編『中世寺院史の研究』下、法蔵館、1988年3月)

松園 斉「中世天皇の『家』について-『日記の家』の視点から-」(愛知学院大学文学部紀要』第21号、1992年3月→学術文献刊行会編『日本史学年次別論文集』中世Ⅱ 1992(平成4)年版、朋文出版、1994年6月)→「天皇家」(同氏『日記の家』、第2部第6章、吉川弘文館、1997年8月)

我妻建治「『花園天皇宸記』を読む-聖人の本旨に非ず-」(『日本常民文化紀要』第18号、1995年3月)

我妻建治「『花園天皇宸記』を読む(Ⅱ)-聖人の本旨に非ず-」(『日本常民文化紀要』第19号、1996年3月)

我妻建治「『花園天皇宸記』を読む(Ⅲ)」(『日本常民文化紀要』第21号、2000年3月)

我妻建治「四方拝について-『花園天皇宸記』を読む(Ⅳ)-」(佐伯有清編『日本古代中世の政治と宗教』吉川弘文館、2002年5月)

酒井茂幸「『花園天皇宸記』書名索引」(『研究と資料』第54輯、2005年12月)

## D. 日記Ⅱ

西田直敏「宸記に見える所謂『自敬表現』について-伏見天皇宸記・花園天皇宸記を中心に-」(『北海道大学』国語国文研究』第50号、1972年10月)→「伏見天皇宸記・花園天皇宸記の『自敬表現』」(同氏『平家物語の文体論的研究』、第8章第2節、明治書院、1978年11月)

西田直敏「『花園天皇宸記』の敬語表現」(佐藤喜代治編『国語論究』第5集中世語の研究、明治書院、1994年12月→同氏『「自敬表現」の歴史的研究』、第17章、研究叢書164、和泉書院、1995年3月)

西田直敏「『花園天皇宸記』の助数詞」(『甲南女子大学研究紀要』創立30周年記念号、1995年3月→同氏『日本語史論考』、Ⅱ-4、研究叢書270、和泉書院、2001年3月)

西田直敏「天皇日記の『自敬表現』-『伏見天皇宸記』・『花園天皇宸記』を中心に-」(同氏『日本人の敬語生活史』、第3章-4、翰林書房、1998年5月)

位藤邦生「小さな語誌『雑熱』について」(『国文学攷』第156号、1997年12月)

## E. 手 跡

赤松俊秀「大覚寺」(『京都府史蹟名勝天然紀念物調査報告』第18冊、1938年3月)→「[大覚寺藏]後宇多天皇・伏見天皇・花園天皇宸翰」(同氏『京都寺史考』、仏教史学研究双書、法蔵館、1972年9月)

- 赤松俊秀「前田侯爵家蔵国宝花園天皇宸翰御消息に就て-後醍醐天皇船上山行幸竝に楠木正成の元弘二・三年の再活動に関する新史料-」(『国民精神文化』第7巻第8号、1941年9月)
- 田山信郎(方南)「三朝宸翰に就いて」(『肇国精神』第3巻第7号、1943年7月)
- 是澤恭三「持明院・大覚寺両統の書風」(『書道全集』第19巻 日本7・鎌倉Ⅱ、平凡社、1957年5月)
- 神田喜一郎「わたくしの好きな書」(『図書』第190号、1965年6月→同氏『墨林問話』岩波書店、1977年10月→『神田喜一郎全集』第9巻、同朋舎出版、1984年10月)
- 山本信吉「〔口絵〕花園天皇宸翰御消息 後二月廿四日(御花押)一幅」(『日本歴史』第350号、1977年7月)
- 山本信吉「〔口絵〕花園天皇宸翰書状(八月二十五日)一幅」(『日本歴史』第424号、1983年9月)
- 春名好重「往年之宸翰」・「三朝宸翰」・「誠大子書」・「花園天皇置文」(二項目)・「花園天皇・宗峰妙超問答書」・「花園天皇消息」(四項目)(同氏編著『古筆大辞典』淡交社、1979年11月)
- 後藤紀彦「花園天皇宸翰願文と塙検校の逸事」(『東京大学史料編纂所報』第16号、1982年3月→『温故叢誌』第36号、1982年11月→温故学会編『塙保己一論纂』下巻、錦正社、1986年10月)
- 小松茂美「花園天皇筆『花園天皇宸記(部分)』」(同氏『天皇の書』、文春新書499、文藝春秋、2006年4月)

## F. 政治

### 通史・総論

- 久米邦武『大日本時代史』第6巻 南北朝時代史(早稲田大学出版部、1907年7月→改題修訂版『日本時代史』第6巻 南北朝時代史、1926年1月)
- 三浦周行『大日本時代史』第5巻 鎌倉時代史(早稲田大学出版部、1907年8月→改題修訂版『日本時代史』第5巻 鎌倉時代史、1926年7月→同氏『日本史の研究』新輯1、岩波書店、1981年1月)
- 田中義成『南北朝時代史』(明治書院、1922年9月→復刻版、講談社学術文庫334、講談社、1979年1月)
- 龍 肅『日本文化史』第6巻 鎌倉時代(大燈閣、1922年7月→改題修訂版『日本新文化史』第6巻 鎌倉時代、内外書籍株式会社、1941年1月)
- 龍 肅『鎌倉時代』下巻(春秋社、1957年12月)
- 中村直勝『日本文化史』第7巻 南北朝時代(大燈閣、1922年8月→改題修訂版『日本新文化史』第7巻 吉野朝時代、内外書籍株式会社、1942年7月/『中村直勝著作集』第2巻 社会文化史、淡交社、1978年2月)
- 魚澄惣五郎『綜合日本史大系』第6巻 南北朝(内外書籍株式会社、1927年2月→分冊修訂版『綜合日本史大系』第11巻・第12巻 吉野朝史、1940年8月~10月)
- 辻善之助『日本文化史』Ⅳ 吉野室町時代(春秋社、1949年9月)
- 村田正志『南北朝論-史実と思想-』(日本歴史新書、至文堂、1959年6月→増補版、1966年11月→『村田正志著作集』第3巻 続々南北朝史論、思文閣出版、1983年12月)
- 黒田俊雄『日本の歴史』第8巻 蒙古襲来(中央公論社、1965年9月→中公文庫、1974年1月→中央公論新社新装改版、中公文庫、2004年12月)
- 網野善彦「鎌倉末期の諸矛盾」(歴史学研究会・日本史研究会編『講座日本史』第3巻 封建社会の展開、東京大学出版会、1970年7月→同氏『悪党と海賊-日本中世の政治と社会-』、第Ⅱ部第1章、叢書・歴史学研究、法政大学出版局、1995年5月/佐藤和彦ほか編『展望日本歴史』第10巻 南北朝内乱、第2章、東京堂出版、2000年2月)
- 網野善彦『日本の歴史』第10巻 蒙古襲来(小学館、1974年9月→分冊版、小学館ライブラリー24・25、1992年6月→小学館文庫、2000年1月)
- 網野善彦『異形の王権』(イメージ・リーディング叢書、平凡社、1986年8月→平凡社ライブラリー10、1993年6月)
- 新田英治「鎌倉後期の政治過程」(『岩波講座 日本歴史』第6巻 中世2、岩波書店、1975年11月)
- 森 茂暁『建武政権-後醍醐天皇の時代-』(教育社歴史新書〈日本史〉60、

教育社、1980年11月)

森 茂暁『後醍醐天皇-南北朝動乱を彩った霸王-』(中公新書1521、中央公論新社、2000年2月)

森 茂暁『南朝全史-大覚寺統から後南朝へ-』(講談社選書メチエ334、講談社、2005年6月)

佐藤進一『日本の中世国家』(日本歴史叢書、岩波書店、1983年4月→岩波モダンクラシックス、2001年9月→岩波現代文庫 学術173、2007年3月)

佐藤進一・網野善彦・笠松宏至『日本中世史を見直す』(悠思社、1994年2月→平凡社ライブラリー-278、平凡社、1999年2月)

村井章介「十三〜十四世紀の日本-京都・鎌倉-」(『岩波講座 日本通史』第8巻 中世2、岩波書店、1994年3月)→「総説-通史と研究史-」(同氏『中世の国家と在地社会』、第1部、歴史科学叢書、校倉書房、2005年12月)

村井章介「南北朝の動乱」(同氏編『日本の時代史』第10巻 南北朝の動乱、吉川弘文館、2003年3月)

村井章介『日本の中世』第10巻 分裂する王権と社会(中央公論新社、2003年5月)

笥 雅博『日本の歴史』第10巻 蒙古襲来と徳政令(講談社、2001年8月)

新田一郎『日本の歴史』第11巻 太平記の時代(講談社、2001年9月)

美川 圭『院政-もうひとつの天皇制-』(中公新書1867、中央公論新社、2006年10月)

## 個別研究

星野 恒「両統ノ迭立」(『史学雑誌』第9編第4号・第8号・第10号・第11号、1898年4月〜11月)→「両統迭立考」(同氏『史学叢説』第2集、富山房、1909年9月)

三浦周行「鎌倉時代の朝幕関係」(『史学雑誌』第17編第2号・第3号・第5号、1906年2月〜5月→同氏『日本史の研究』第1輯、岩波書店、1922年5月→分冊復刻版、1981年9月)

古田(水戸部)正男「鎌倉時代の記録所に就いて」(『史潮』第8年第1号、

1938年3月)

橋本義彦「院評定制について」(『日本歴史』第261号、1970年2月→北爪真佐夫ほか編『論集 日本歴史』第4巻 鎌倉政権、有精堂、1976年2月/同氏『平安貴族社会の研究』、第1部、吉川弘文館、1976年9月)

梶 博行「中世における公武関係-関東申次と皇位継承-」(『鎌倉』第32号、1979年9月)

森 茂暁「鎌倉後期政治史の一齣」(『日本歴史』第410号、1982年7月)→「鎌倉後期の朝幕関係-皇位継承をめぐって-」(同氏『南北朝期公武関係史の研究』、第1章第1節、文献出版、1984年6月)

森 茂暁「鎌倉期の公武交渉関係文書について-朝廷から幕府へ-」(『金沢文庫研究』第273号、1984年9月)→「幕府への勅裁伝達と関東申次」(同氏『鎌倉時代の朝幕関係』、第1章第3節、思文閣史学叢書、思文閣出版、1991年6月)

森 茂暁「鎌倉後期における公家訴訟制度の展開」(時野谷滋博士還暦記念論集刊行会編『時野谷滋博士還暦記念 制度史論集』時野谷滋博士還暦記念論集刊行会、1986年12月→同氏『鎌倉時代の朝幕関係』、第4章第1節、思文閣史学叢書、思文閣出版、1991年6月)

森 茂暁「東使考-鎌倉期の公武交渉の一側面-」(川添昭二先生還暦記念会編『日本中世史論攷』、文献出版、1987年3月)→「『東使』とその役割」(同氏『鎌倉時代の朝幕関係』、第2章第1節、思文閣史学叢書、思文閣出版、1991年6月)

森 茂暁「『延慶法』の紹介」(『国書逸文研究』第19号、1988年6月→同氏『鎌倉時代の朝幕関係』、第4章第1節1付録、思文閣史学叢書、思文閣出版、1991年6月)

森 茂暁『鎌倉時代の朝幕関係』(思文閣史学叢書、思文閣出版、1991年6月)

笥 雅博「道蘊・浄仙・城入道」(『三浦古文化』第38号、1985年11月)

笥 雅博「公家政権と京都」(『岩波講座 日本通史』第8巻 中世2、岩波書店、1994年3月)

笥 雅博「中世王権の周辺をめぐって」(『思想』第893号、1998年11月)

藤原良章「公家庭中の成立と奉行-中世公家訴訟制に関する基礎的考

- 察-」(『史学雑誌』第94編第11号、1985年11月→同氏『中世的思惟とその社会』、第1部第2章、吉川弘文館、1997年5月)
- 外岡慎一郎「鎌倉後期の公武交渉について-公武交渉文書の分析-」(『敦賀論叢』創刊号、1986年12月)
- 稲葉伸道「中世の訴訟と裁判-鎌倉後期の雑訴興行と越訴-」(朝尾直弘ほか編『日本の社会史』第5巻 裁判と規範、岩波書店、1987年5月)
- 羽下徳彦「『花園天皇宸記』と文保御和談」(『季刊 ぐんしょ』第2号、1988年10月→同氏『点景の中世-武家の法と社会-』、第2部、吉川弘文館、1997年6月)
- 市沢 哲「鎌倉後期公家社会の構造と『治天の君』」(『日本史研究』第314号、1988年10月)
- 市沢 哲「鎌倉後期の公家政権の構造と展開-建武新政への一展望-」(『日本史研究』第355号、1992年3月→佐藤和彦ほか編『展望日本歴史』第10巻 南北朝内乱、第4章、東京堂出版、2000年2月)
- 美川 圭「院政をめぐる公卿議定制の展開-在宅諮問・議奏公卿・院評定制-」(『日本史研究』第348号、1991年8月→同氏『院政の研究』、第8章、臨川書店、1996年11月)
- 古澤直人「北条氏の専制と建武新政」(永原慶二ほか編『講座 前近代の天皇』第1巻 天皇権力の構造と展開 その1、青木書店、1992年12月)
- 伊藤喜良「両統と正当化論」(永原慶二編『中世の発見』吉川弘文館、1993年4月→同氏『中世国家と東国・奥羽』、第1部第4章、歴史科学叢書、校倉書房、1999年2月)
- 本郷和人『中世朝廷訴訟の研究』(東京大学出版会、1995年4月)
- 本郷和人「文保の和談-鎌倉時代、皇位の継承はだれが定めたか-」(『UP』第281号、1996年3月)
- 村井章介「吉田定房奏状はいつ書かれたか」(『日本歴史』第587号、1997年4月→同氏『中世の国家と在地社会』、第2部、歴史科学叢書、校倉書房、2005年12月)
- 本郷恵子「公家政権の経済的変質」(同氏『中世公家政権の研究』、第2部第2章、東京大学出版会、1998年3月)

- 西谷正浩「鎌倉期における貴族の家と荘園」(『日本史研究』第428号、1998年4月)→「鎌倉時代における貴族社会の変容」(同氏『日本中世の所有構造』、第3編第4章、塙書房、2006年11月)
- 百瀬今朝雄『弘安書札礼の研究-中世公家社会における家格の桎梏-』(東京大学出版会、2000年5月)
- 白根靖大「鎌倉後期の公家社会と治天」(同氏『中世の王朝社会と院政』、第2部第9章、吉川弘文館、2000年2月)
- 菊地大樹「宗尊親王の王孫と大覚寺統の諸段階」(『歴史学研究』第747号、2001年3月)
- 永井 晋「元徳年間の新出金沢貞顕書状について- 允書写本『当流口伝』紙背文書の紹介-」(『金沢文庫研究』第307号、2001年10月→同氏『金沢北条氏の研究』、第4章第5節、八木書店、2006年12月)
- 永井 晋「『当流口伝』紙背金沢貞顕書状の正誤」(『金沢文庫研究』第308号、2002年3月→同氏『金沢北条氏の研究』、第4章第5節、八木書店、2006年12月)
- 永井 晋『金沢貞顕』(人物叢書235、吉川弘文館、2003年7月)
- 野村朋弘「鎌倉後期の持明院統と廷臣」(『國學院雑誌』第104編第7号、2003年7月→学術文献刊行会編『日本史学年次別論文集』中世 I 2003 (平成15) 年版、朋文出版、2005年9月)
- 橋本芳和「元弘元年康仁親王立太子の背景 (I) ~ (III)」(『政治経済史学』第473号~第475号、2006年1月~2006年3月)

## G. 学 問

- 岡田正之「花園帝と漢文学-御日記を拝読して-」(『斯文』第3巻第5号、第4巻第1号・第2号、1921年10月~1922年4月)
- 河野省三「花園院宸記を拝読して-思想的興味的一端-」(『國學院雑誌』第28巻第2号、1922年2月)
- 内藤湖南「日本文化の独立」(『歴史と地理』第12巻第1号、1923年7月→同氏『増訂 日本文化史研究』弘文堂、1930年11月→『内藤湖南全集』第9

- 卷、筑摩書房、1969年4月)
- 足利衍述「花園上皇の御好学」(同氏『鎌倉室町時代之儒教』、第2編第3章、日本古典全集刊行会、1932年12月→復刻版、有明書房、1970年5月)
- 浅井了宗「花園院宸記に現はれたる宋学に就いて」(『龍谷史壇』第21号、1938年3月)
- 坂本太郎「帝範と日本」(『日本歴史』第94号、1956年4月→同氏『日本古代史の基礎的研究』上 文献篇、東京大学出版会、1964年5月→『坂本太郎著作集』第4巻 風土記と万葉集、吉川弘文館、1988年10月)
- 和島芳男「中世における周易の研究について-南朝宋学説批判-」(『神戸女学院大学論集』第5巻第1号、1958年6月)
- 和島芳男「花園天皇の儒仏分離論について」(『仏教史学』第10編第1号、1962年1月)
- 和島芳男「花園天皇の御学風」(同氏『日本宋学史の研究』、第2章1、吉川弘文館、1962年7月→増補版、1988年5月)
- 和島芳男「花園天皇」(同氏『中世の儒学』、第3-1、日本歴史叢書11、吉川弘文館、1965年3月→新装版、1996年7月)
- 和島芳男「中世宋学史の展望-問題点と旧説批判-」(『日本歴史』第262号、1970年3月→同氏『日本宋学史の研究』増補版、補遺I、吉川弘文館、1988年5月)
- 皆川完一「岡谷本令義解について」(『新訂増補 国史大系』第23巻 令集解前篇 付録月報、吉川弘文館、1966年2月→国史大系編修会編『新訂増補 国史大系』月報 付異本公卿補任、吉川弘文館、2001年5月)
- 井上順理「宮廷公卿における孟子受容」(同氏『本邦中世までにおける孟子受容史の研究』、中篇第2章、風間書房、1972年5月)
- 斯文会編『日本漢学年表』(大修館書店、1977年7月)
- 彌吉光長「『花園宸記』にみえる読書と御信念」(『國學院大学栃木短期大学紀要』第20号、1986年3月)
- 長永孝弘「中世宮廷の学問をめぐる問題-花園天皇周辺の動向についての再検討-」(『白山史学』第26号、1990年4月)
- 村井章介「易姓革命の思想と天皇制」(永原慶二ほか編『講座 前近代の天皇』

- 第5巻 世界史のなかの天皇、青木書店、1995年11月→同氏『中世の国家と在地社会』、第2部、歴史科学叢書、校倉書房、2005年12月)
- 橋本芳和「花園天皇の御学問」(『政治経済史学』第370号、1997年4月)
- 住吉朋彦「花園天皇の『論語』摘句と『列子抄』について」(『日本漢学研究』第2号、1998年10月)
- 金子 拓「室町殿の帝王学-中世読書史序説-」(『歴史』第97輯、2001年9月)
- 小川剛生「南北朝期の『孟子』受容の一樣相-二条良基とその周辺から-」(『国文学研究資料館紀要』第28号、2002年2月)→「孟子の受容」(同氏『二条良基研究』、第4篇第3章第2節、笠間叢書362、笠間書院、2005年11月)
- 野村朋弘「『花園天皇宸記』にみえる『尚書』談義」(『再興中世前期勉強会会報』段かづら』第3・4合併号、2004年3月)
- 誠太子書
- 辻善之助「花園天皇誠太子書」(『肇国精神』第4巻第9号、1944年9月)
- 小島鉦作「中世祭祀論の一典型-花園天皇『誠太子書』とその祭祀論-」(滝川政次郎先生米寿記念論文集刊行会編『神道史論叢 滝川政次郎先生米寿記念論文集』国書刊行会、1984年5月)
- 橋本義彦「誠太子書の皇統観」(安田元久先生退任記念論集刊行委員会編『中世日本の諸相』下巻、吉川弘文館、1989年4月→同氏『平安の宮廷と貴族』、I-第2、吉川弘文館、1996年12月)
- 河内祥輔「学芸と天皇」(永原慶二ほか編『講座 前近代の天皇』第4巻 統治的諸機能と天皇観、青木書店、1995年6月)
- 文庫
- 小野則秋「朝廷の御文庫」(同氏『日本文庫史研究』上巻、第2編第2章、大雅堂、1945年9月→復刻版、臨川書店、1980年3月)
- 田島 公「中世天皇家の文庫・宝蔵の変遷-蔵書目録の紹介と収蔵品の行方-」(同氏編『東山御文庫本を中心とした禁裏本および禁裏文庫

の総合的研究』平成10年度～平成12年度科学研究費補助金（基盤研究（A）（2））研究成果報告書（課題番号10301015）、2001年3月→同氏編『禁裏・公家文庫研究』第2輯、思文閣出版、2006年3月）

田島 公「典籍の伝来と文庫-古代・中世の天皇家ゆかりの文庫・宝蔵を中心に-」（石上英一編『日本の時代史』第30巻 歴史と素材、吉川弘文館、2004年11月）

田島 公「中世蔵書目録管見」（同氏編『禁裏・宮家・公家文庫蔵書古典籍のデジタル化による目録学的研究』平成14年度～平成17年度科学研究費補助金（基盤研究（A））研究成果報告書（課題番号14201032）、2006年3月）

## H. 仏 教

### 全 般

日種讓山「花園法皇の御信仰に就て」（『正法輪』第819号～第821号、1935年7月～1935年8月）

寺崎修一「花園上皇の仏教思想」（日本文化研究会編『日本精神研究』第8輯 日本仏教、東洋書院、1935年11月）

鎌田禪商「神祇に関する花園法皇の御態度」（『禅学研究』第73号、1942年10月）

辻善之助「花園天皇の御信仰」（澤口泰憲編『花園天皇の御芳躅』妙心寺開基花園天皇六百年御聖諱記念大法会局、1945年4月）

辻善之助「禅宗の宮廷接近」（同氏『日本仏教史』第3巻 中世篇之2、第7章 第11節、岩波書店、1949年1月）

小此木輝之「花園天皇の信仰について」（『印度学仏教学研究』第24巻第2号、1976年3月）

古田紹欽「花園法皇の御信仰」（『財団法人松ヶ岡文庫研究年報』第11号、1997年3月）

### 天 台

岡田米夫「大日本洲大宗秘府に就いて」（『神道研究』第1巻第4号、1940年10月）

三田村玄龍（鳶魚）「花園法皇御製の天台七箇法門」（澤口泰憲編『花園天皇の御芳躅』妙心寺開基花園天皇六百年御聖諱記念大法会局、1945年4月）

赤松俊秀「南北朝内乱と未来記について-四天王寺御手印縁起・慈鎮和尚夢想記-」（『仏教史学』第5巻第1号、1956年1月→同氏『鎌倉仏教の研究』平楽寺書店、1957年8月）

赤松俊秀「慈鎮和尚夢想記について」（同氏『鎌倉仏教の研究』平楽寺書店、1957年8月）

白土わか「曼殊院蔵『胎』印信断簡について」（『仏教学セミナー』第35号、1982年5月）

岩佐美代子「七箇法門口決」（同氏『京極派和歌の研究』、第1編第3章第1節、笠間叢書212、笠間書院、1987年10月）

阿部泰郎「宝珠と王権-中世王権と密教儀礼-」（『岩波講座 東洋思想』第16巻 日本思想2、岩波書店、1989年3月）

橋本芳和「天台座主慈嚴の一考察（Ⅰ）（Ⅱ）」（『政治経済史学』第438・439～440号、2003年2・3月～2004年4月）

### 律

林 幹彌「東山の太子堂」（『日本歴史』第260号、1970年1月）

林 幹彌「律僧らと太子堂」（同氏『太子信仰の研究』、第3部第3章、吉川弘文館、1980年2月）

細川涼一「天皇と仏教-鎌倉末から南北朝期の天皇と律僧を中心に-」（『現代のエスプリ』別冊 天皇制の現像、1986年11月）

細川涼一「中世律宗と国家-鎌倉末期の政治・社会状況の中で-」（『日本史研究』第295号、1987年3月）

追塩千尋「叡尊歿後の西大寺-二代長老信空とその周辺をめぐって-」（速水侑編『院政期の仏教』吉川弘文館、1998年2月）→「叡尊歿後の

西大寺-二代長老信空とその周辺-」（同氏『中世南都の僧侶と寺院』、第3部第2章、吉川弘文館、2006年6月）

## 禪

辻善之助「京都府及滋賀県下出張復命書」（『史学雑誌』第20編第4号、1909年4月）

鷲尾順敬「花園法皇の御参禪」（『禅道』第11号、1911年6月→『藍山全集』第1巻 日本禅宗史の研究、教典出版、1945年10月）

川上孤山著・本山妙心寺編『妙心寺史』全2巻（妙心寺派教務本所、1917年4月～1921年12月→川上孤山著・荻須純道補述『増補 妙心寺史』思文閣出版、1975年4月）

粟野秀穂「花園上皇と禅宗」（『史蹟と古美術』第1巻第1号、1928年3月）

天岫接三編『妙心寺六百年史』（妙心寺開創六百年記念雪江禪師四百五十年遠諱大法会局、1935年4月）

鎌田禪商「花園法皇と大燈国師（1）～（5）」（『正法輪』第895号、1939年7月、第896号、1939年8月、第899号、1939年11月、第904号、1940年3月、第909号、1940年7月）

鎌田禪商「花園院天皇宸記を拝誦して（1）」（『正法輪』第910号、1940年8月）\*（2）以降見えず

鎌田禪商「花園法皇と禅-特にその時代的背景-」（『禅学研究』第35号、1941年10月）

小笠原秀実「花園法皇の御証道と興禅護国」（『禅学研究』第32号、1939年11月）

赤松俊秀「長福寺」（『京都府史蹟名勝天然紀念物調査報告』第20冊、1940年3月）→「梅津長福寺-花園天皇旧跡-」（同氏『京都寺史考』、仏教史学研究双書、法蔵館、1972年9月）

玉村竹二「花園天皇と大燈国師」（『肇国精神』第3巻第7号、1943年7月→同氏『日本禅宗史論集』上巻、人物篇、思文閣出版、1976年8月）

玉村竹二「初期妙心寺史の二三の疑点（上）（下）」（『日本仏教史』第3号～第4号、1957年12月～1958年5月→同氏『日本禅宗史論集』下之2、

教団篇（2）、思文閣出版、1981年1月）

玉村竹二「初期妙心寺史研究拾遺」（『日本仏教』第4号、1959年7月）→「初期妙心寺史研究補遺」（同氏『日本禅宗史論集』下之2、教団篇（2）、思文閣出版、1981年1月）

玉村竹二「大徳寺の歴史・年表・法系」（田山方南ほか編『秘宝』第5巻 大徳寺、講談社、1976年11月）→「大徳寺の歴史」（同氏『日本禅宗史論集』下之2、教団篇（2）、思文閣出版、1981年1月）

荻須純道『無相大師』（開山無相大師六百年大遠諱局、1958年7月）

荻須純道「妙心寺の開創について」（『禅学研究』第52号、1962年5月）

荻須純道「宗峰妙超とその禅」・「関山慧玄の諸問題」（同氏『日本中世禅宗史』木耳社、1965年5月）

荻須純道・竹貫元勝『妙心寺』（寺社シリーズ（2）、東洋文化社、1977年4月）

吉村貞司「花園天皇と禅」（鹿野山研修所論集編纂委員会編『鹿野山研修所論叢』第1集 中世日本の禅とその文化-主として臨済禅をめぐって-、鹿野山禅青少年研修所、1987年12月）

竹貫元勝「南北朝期・室町期の禅宗」（同氏『日本禅宗史』、第3章、大蔵出版、1989年9月）

竹貫元勝「関山慧玄と月林道皎」（同氏『新日本禅宗史-時の権力者と禅僧たち-』、第2章第2節、禅文化研究所、1999年7月）

加藤正俊「関山慧玄の東遊について」（『禅文化研究所紀要』第24号、1998年12月→同氏『関山慧玄と初期妙心寺』、第9章、思文閣出版、2006年2月）

加藤正俊『関山慧玄と初期妙心寺』（思文閣出版、2006年2月）

永井規男「初期妙心寺の寺地について」（『建築史学』第34号、2000年3月）

保立道久「創建期の大徳寺と王権-開堂前後の時期に視点をおいて-」（同氏編『禅宗寺院文書の古文書学的研究-宗教史と史料論のはざま-』平成14年度～平成16年度科学研究費補助金（基盤研究（A）（2））研究 成果報告書（課題番号14201031）、2005年3月）

仏 事

- 中井裕子「『光厳院御記』にみる長講堂供花会とその装束」(『史泉』第95号、2002年1月)
- 北條文彦「中世に於ける長講堂の供花の沿革について」(『駒沢史学』第58号、2002年3月)
- 徳永誓子「後鳥羽院怨霊と後嵯峨皇統」(『日本史研究』第512号、2005年4月)

I. 和 歌

全 般

- 斎藤清衛「正中元年」(同氏『南北朝時代文学新史』、本篇 南北朝時代文学通史 1、春陽堂、1933年4月)
- 斎藤清衛「花園院御記と和歌史資料」(同氏『南北朝時代文学新史』、続篇 特殊研究1、春陽堂、1933年4月)
- 西下経一「花園天皇御製と光厳院御製」(同氏『和歌史論』、第4章7、至文堂、1944年11月)
- 久松潜一「風雅集の考察」(『樟蔭文学』第3号、1951年10月→同氏『国文学への道』、国語国文学研究叢書1、桜楓社、1958年10月)
- 大内摩耶子「花園院と和歌-宸記をめぐって-」(『大阪府立大学紀要 人文・社会科学』第9号、1961年3月)
- 次田香澄「風雅集の形成(上)(下)」(『国語と国文学』第40巻第2号〜第3号、1963年5月〜6月→同氏著・岩佐美代子責任編集『玉葉集 風雅集攷』、第3章、笠間叢書352、笠間書院、2004年10月)
- 次田香澄「花園上皇の思想と文学」(『二松学舎大学論集』昭和42年度、1968年3月)
- 次田香澄「玉葉・風雅集」(全国大学国語国文学会監修『講座日本文学』第5巻 中世編I、三省堂、1969年1月)→「玉葉・風雅集概説」(同氏著・岩佐美代子責任編集『玉葉集 風雅集攷』、第1章、笠間叢書352、笠間書院、2004年10月)
- 次田香澄著・岩佐美代子責任編集『玉葉集 風雅集攷』(笠間叢書352、笠間

書院、2004年10月)

- 井上宗雄『中世歌壇史の研究 南北朝期』(明治書院、1965年11月→改訂版、1987年5月)
- 濱口博章「玉葉和歌集」(和歌文学会編『和歌文学講座』第4巻 万葉集と勅撰和歌集、桜楓社、1970年3月→同氏『中世和歌の研究-資料と考証-』、新典社研究叢書32、新典社、1990年3月)
- 糸賀きみ江「風雅和歌集」(和歌文学会編『和歌文学講座』第4巻 万葉集と勅撰和歌集、桜楓社、1970年3月)→「新古今・玉葉・風雅」(同氏『中世の抒情』、I、笠間叢書99、笠間書院、1979年3月)
- 安田章生「花園院」(『甲南大学紀要 文学編』第3号、1971年3月→同氏『歌の深さ-古典和歌・現代短歌-』創元社、1971年11月)
- 福田秀一『中世和歌史の研究』(角川書店、1972年3月)
- 服部久美子「花園院の和歌観とその作品」(小沢正夫ほか編『古今新古今とその周辺』大学堂書店、1972年7月)
- 岩佐美代子『京極派歌人の研究』(笠間書院、1974年4月)
- 岩佐美代子「玉葉・風雅自然詠の思想的系譜」(川口久雄編『古典の変容と新生』明治書院、1984年11月→同氏『京極派和歌の研究』、第1編序章、笠間叢書212、笠間書院、1987年10月)
- 岩佐美代子『京極派和歌の研究』(笠間叢書212、笠間書院、1987年10月)
- 岩佐美代子「玉葉集と風雅集」(有吉保責任編集『和歌文学講座』第7巻 中世の和歌、勉誠社、1994年1月)
- 深津睦夫「花園院の和歌観」(『〔名古屋大学〕国語国文学』第45号、1979年12月)
- 深津睦夫「花園院の和歌観再考-宋学の影響の可能性をめぐって-」(『皇学館論叢』第22巻第4号、1989年8月)→「風雅和歌集序の思想-宋学の影響の可能性をめぐって-」(同氏『中世勅撰和歌集史の構想』、第2編第2章、笠間書院、2005年3月)
- 小川剛生「玉葉和歌集」(西沢正史ほか編『日本古典文学研究史大事典』勉誠社、1997年11月)
- 小林一彦「風雅和歌集」(西沢正史ほか編『日本古典文学研究史大事典』勉誠社、

1997年11月)

## 作品研究

山上上泉「列聖御製の法華経讃歌研究(二)」(『大崎学報』第55号、1920年2月)

川田 順「花園院御製謹抄」(澤口泰憲編『花園天皇の御芳躰』妙心寺開基花園天皇六百年御聖諱記念大法会局、1945年4月)

石原清志「風雅集の釈教歌」(『龍谷大学論集』第382号、1966年11月)

次田香澄「風雅和歌集序の考察」(『山梨県立女子短期大学紀要』第7号、1974年3月)

岩佐美代子「花園院の釈教歌-体露金風について-」(『仏教文学』第4号、1980年3月)→「体露金風」(同氏『京極派和歌の研究』、第1編第3章第2節、笠間叢書212、笠間書院、1987年10月)

深津睦夫「京極派・康永期歌風の一面について-永福門院と花園院の役割を中心に-」(『国文学』言語と文芸』第90号、1980年9月)

津田真里「康永期の京極派歌風-散逸『院五首歌合』の歌題から-」(『名古屋大学』国語国文学』第50号、1982年7月→学術文献刊行会編『国文学年次別論文集』中世I 昭和57(1982)年、朋文出版、1984年1月)

鹿目俊彦『風雅和歌集の基礎的研究』(笠間書院、1986年3月)

大坪利絹「風雅集随便抄(一)-至尊三首-」(『親和国文』第23号、1988年12月→学術文献刊行会編『国文学年次別論文集』中世I 昭和63(1988)年、朋文出版、1990年1月)

伊藤正文「『風雅和歌集』の真名序について」(濱口博章教授退職記念国文学論集刊行会編『濱口博章教授退職記念 国文学論集』和泉書院、1990年12月)

伊藤伸江「康永期の京極派-『院六首歌合』の『色』『心』詠をめぐって-」(『国語と国文学』第71巻第9号、1994年9月→同氏『中世和歌連歌の研究』、第1章第6節、笠間書院、2002年1月)

三村晃功「花園天皇の和歌-『玉葉集』収載歌をめぐって-」(『臨濟宗妙

心寺派教化センター』研究報告』第6号、1996年8月→同氏『中世隠遁歌人の文学研究』、第1章第3節I、研究叢書317、和泉書院、2004年9月)

三村晃功「花園上皇の恋の世界-『風雅和歌集』の恋歌の分析-」(光華女子大学日本文学科編『恋のかたち-日本文学の恋愛像-』和泉書院、1996年12月→同氏『中世隠遁歌人の文学研究』、第1章第3節II、研究叢書317、和泉書院、2004年9月)

三村晃功「花園院-恋歌の世界-」(『国文学 解釈と鑑賞』第64巻第10号、1999年10月)

## その他

次田香澄「風雅集撰者考」(『国語と国文学』第13巻第12号、1936年12月)

石田吉貞「風雅集御撰者考」(『國學院雑誌』第553号、1940年9月)→「風雅集撰者考」(同氏『新古今世界と中世文学』上巻、北沢図書出版、1972年6月→復刻版、パルトス社、1998年12月)

後藤重郎「風雅和歌集撰定に関する一考察」(『名古屋大学文学部研究論集』第31号 文学11、1963年3月)

大坪利絹「風雅和歌集撰者に関する問題点」(『大阪大学』語文』第28輯、1968年5月)→「撰者の考察」(同氏『風雅和歌集論考』、国語国文学研究叢書28、桜楓社、1979年6月)

大坪利絹「京極歌風の問題点」(『大阪大学』語文』第29輯、1971年5月)→「歌風について」(同氏『風雅和歌集論考』、国語国文学研究叢書28、桜楓社、1979年6月)

大坪利絹「風雅和歌集の理世述志及び正理質正の歌に就きて」(『中世文学』第17号、1972年5月)→「撰進目的の顕現歌について」(同氏『風雅和歌集論考』、国語国文学研究叢書28、桜楓社、1979年6月)

大坪利絹「風雅集政教的雑歌の後背思想について」(田中裕先生の御退職を記念する会編『語文叢誌-田中裕先生御退職記念論集-』文進堂、1981年3月)

岩佐美代子「風雅集女流歌人伝記考-『田中本帝系図』を中心に-」(『国

- 語国文』第40巻第6号、1971年6月)→「田中本帝系図をめぐる歌人達」(同氏『京極派歌人の研究』、第3章第5節、笠間書院、1974年4月)
- 岩佐美代子「花園院宸記をめぐる歌人達」(同氏『京極派歌人の研究』、第3章第3節、笠間書院、1974年4月)
- 岩佐美代子「花園院七回忌『法華経要文和歌懐紙』翻刻と考察」(『国語国文』第48巻第8号、1979年8月)→「花園院七回忌法華経要文和歌懐紙」(同氏『京極派和歌の研究』、第3編第7章、笠間叢書212、笠間書院、1987年10月)
- 早川(安田)徳子『玉葉和歌集の研究-作者部類並びに副文献資料目録-』(私家版、1973年5月)
- 安田徳子「玉葉和歌集副文献資料一覧」(同氏『中世和歌研究』、研究叢書222、和泉書院、1998年3月)
- 山西商平「『花園天皇宸記』に見える二条為世評」(『甲南大学紀要 文学編』第13号、1974年3月)
- 林 浩平「京極派における浄土教的心性をめぐって-玉葉集・風雅集釈教部巻頭歌群の問題を中心に-」(『和歌文学研究』第56号、1988年6月)
- 京 極 為 兼
- 萩野懐之「冷泉為兼卿」・「冷泉為兼卿補遺」(『史学界』第4巻第10号、1902年10月、第4巻第12号、1902年12月、第5巻第2号、1903年2月)→「藤原為兼卿」(萩野由之編『萩野懐之遺稿』私家版、1921年8月)
- 吉澤義則「大覚寺持明院両統を背景としたる和歌の論争」(『歴史と地理』第12巻第1号、1923年7月)→同氏『国語国文の研究』岩波書店、1927年4月)
- 小原幹雄「京極為兼の研究」(『国語国文』第5巻第4号、1935年4月)
- 小原幹雄「藤原為兼年譜考(正)(続)(続々)」(『島根大学論集 人文科学篇』第8号〜第10号、1958年2月〜1961年3月)

- 小原幹雄「藤原為兼の歌歴」(『[島根大学] 開学十周年記念論文集 人文科学篇』、1960年2月)
- 小原幹雄「藤原為子年譜小考」(『島大国文』第9号、1980年9月)→学術文献刊行会編『国文学年次別論文集』中世I 昭和55(1980)年、朋文出版、1982年3月)
- 次田香澄「歌論史上の為兼と花園院」(『国文学 解釈と鑑賞』第3巻第5号、1938年5月)
- 次田香澄「為兼伝の考察」(『国語と国文学』第17巻第11号、1940年11月)
- 次田香澄「為兼の文学の問題点-新たな資料と視点から-」(『文学』第31巻第8号、1963年8月)
- 次田香澄「玉葉集の形成」(『日本学士院紀要』第22巻第1号、1964年3月)→同氏著・岩佐美代子責任編集『玉葉集 風雅集攷』、第2章、笠間叢書352、笠間書院、2004年10月)
- 土岐善麿『京極為兼』(西郊書房、1947年10月)
- 土岐善麿『新修 京極為兼』(角川書店、1968年6月)
- 土岐善麿『京極為兼』(日本詩人選15、筑摩書房、1971年2月)
- 村田正志「京極為兼と玉葉和歌集の成立」(國學院大学編『古典の新研究』第1集、角川書店、1952年10月)→『村田正志著作集』第5巻 国史学論説、第4章第4節、思文閣出版、1985年2月)
- 福田秀一「延慶両卿訴陳状の成立に関する資料」(『国語と国文学』第34巻第1号、1957年1月)→「玉葉集の撰者をめぐる論争-延慶両卿訴陳状の成立-I その資料」(同氏『中世和歌史の研究』、第2篇第5章、角川書店、1972年3月)
- 福田秀一「延慶両卿訴陳状の成立」(『国語と国文学』第34巻第7号、1957年7月)→「玉葉集の撰者をめぐる論争-延慶両卿訴陳状の成立-II その経過」(同氏『中世和歌史の研究』、第2篇第5章、角川書店、1972年3月)
- 福田秀一「為兼の書状二通」(『岩波講座 日本文学史』第4巻 付録月報、岩波書店、1958年4月)→「為兼の書状及び陳状草」(同氏『中世和歌史の研究』、第2篇第5章Ⅲ第2節、角川書店、1972年3月)

- 福田秀一「延慶両卿訴陳の資料と経過補説」(『武蔵大学人文学会雑誌』第2巻第1号、1970年6月)→「玉葉集の撰者をめぐる論争-延慶両卿訴陳状の成立-Ⅲ 補説」(同氏『中世和歌史の研究』、第2篇第5章、角川書店、1972年3月)
- 福田秀一「延慶両卿訴陳状の伝本と伝来」(『武蔵大学人文学会雑誌』第2巻第3号、1970年12月→同氏『中世和歌史の研究』、第3篇第7章、角川書店、1972年3月)
- 福田秀一「京極為兼の伝記と作品の問題点」(同氏『中世和歌史の研究』、第2篇第7章Ⅰ、角川書店、1972年3月)
- 福田秀一「為兼の歌論に関する資料」(同氏『中世和歌史の研究』、第3篇第6章、角川書店、1972年3月)
- 小西甚一「玉葉集時代と宋詩」(上甲幹一編『中世文学の世界-西尾実先生古稀祈念論文集-』岩波書店、1960年3月)
- 石田吉貞「京極為兼」(久松潜一ほか編『日本歌人講座』第4巻 中世の歌人Ⅱ、弘文堂、1961年3月)→「玉葉集撰者京極為兼」(同氏『新古今世界と中世文学』上巻、北沢図書出版、1972年6月→復刻版、パルトス社、1998年12月)
- 小屋洋子「従二位為子年譜考」(『立教大学』日本文学』第18号、1967年6月)
- 篠 弘「藤原為兼」(和歌文学会編『和歌文学講座』第7巻 中世・近世の歌人、桜楓社、1970年7月)
- 吉岡英幸「京極為兼の歌論」(『国文学研究』第49号、1973年2月)
- 岩佐美代子「弘安末年の京極為兼-看聞日記紙背詠草と為兼卿和歌抄-」(『国語国文』第42号第4号、1973年4月)→「歌風形成期の京極為兼-看聞日記紙背詠草と為兼卿和歌抄-」(同氏『京極派歌人の研究』、第1章第1節、笠間書院、1974年4月)
- 岩佐美代子「大宮院権中納言-若き日の従二位為子-」(森本元子編『和歌文学新論』明治書院、1982年5月)
- 岩佐美代子「京極為兼の歌風形成と唯識説」(『創立二十周年記念鶴見大学文学部論集』刊行委員会編『鶴見大学文学部論集』鶴見大学、1983年5月)→「為兼歌論と唯識説」(同氏『京極派和歌の研究』、第1編第1章第1節、笠間書院、1987年10月)
- 岩佐美代子「明恵上人と京極派和歌」(『仏教文学』第8号、1984年3月)→「為兼歌論と明恵」(同氏『京極派和歌の研究』、第1編第1章第2節、笠間書院、1987年10月)
- 岩佐美代子「京極為兼の八景歌」(和漢比較文学会編『和漢比較文学叢書』第5巻 中世文学と漢文学Ⅰ、汲古書院、1987年7月)→「八景歌考」(同氏『京極派和歌の研究』、第2編補説、笠間書院、1987年10月)
- 岩佐美代子「為兼における『畢竟空』」(同氏『京極派和歌の研究』、第1編第1章第3節、笠間書院、1987年10月)
- 岩佐美代子「概観」・「歌歴と歌風」・「完成期の歌風とその意義」(同氏『京極派和歌の研究』、第2編第1章・第2章・第3章、笠間書院、1987年10月)
- 岩佐美代子「唯識説と文学-京極為兼の和歌-」(伊藤博之ほか編『仏教文学講座』第2巻 仏教思想と日本文学、勉誠社、1995年1月)
- 岩佐美代子「京極為兼の歌論と実践」(『和歌文学論集』編集委員会編『和歌文学論集』第7巻 歌論の展開、風間書房、1995年3月)
- 八嶋正治「歌合史から見た玉葉歌風の変遷-初期為兼世界への照射-」(『書陵部紀要』第25号、1974年3月)
- 井口牧二「為兼歌論と仏教思想」(『国文学研究』第72号、1980年10月)
- 佐々木忠慧「新出・京極為兼三十三首和歌」(『宮城学院女子大学研究論文集』第57号、1982年12月→同氏『中世歌論とその周辺』、後篇 和歌論考、桜楓社、1984年10月)
- 濱口博章「京極為兼と京極派歌人たち」(有吉保責任編集『和歌文学講座』第7巻 中世の和歌、勉誠社、1994年1月)
- 小川剛生「京極為兼」(西沢正史ほか編『日本古典文学研究史大事典』勉誠社、1997年11月)
- 小川剛生「歌道家の人々と公家政権-『延慶両卿訴陳』をめぐって-」(兼築信行ほか責任編集『和歌を歴史から読む』、和歌文学会論集、笠間書院、2002年10月)

- 小川剛生「京極為兼と公家政権-土佐配流事件を中心に-」(『文学』第4巻第6号、2003年11月)
- 久保木秀夫「伝後伏見院筆歌集残簡-京極派歌人の贈答歌集-」(『国文学研究資料館紀要』第27号、2001年3月)
- 今谷 明「中世を人はどのように生きたか-中世奇人列伝-(3)(4)京極為兼(上)(下)」(『草思』第2巻第7号~第8号、2000年7月~8月)→「政治に深入りした歌人 京極為兼」(同氏『中世奇人列伝』草思社、2001年11月)
- 今谷 明『京極為兼-忘れぬべき雲の上かは-』(ミネルヴァ日本評伝選、ミネルヴァ書房、2003年9月)
- 井上宗雄『京極為兼』(人物叢書243、吉川弘文館、2006年4月)

## J. 音 楽

- 岩佐美代子「音楽史の中の京極派歌人達-琵琶・箏伝授系譜による考察-」(『和歌文学研究』第37号、1977年9月→同氏『京極派和歌の研究』、第3編第2章、笠間叢書212、笠間書院、1987年10月)
- 相馬万里子『代々琵琶秘曲御伝受事』とその前後-持明院統天皇の琵琶-」(『書陵部紀要』第36号、1985年2月)
- 相馬万里子「琵琶の時代から笙の時代へ-中世の天皇と音楽-」(『書陵部紀要』第49号、1998年3月→学術文献刊行会編『日本史学年次別論文集』中世Ⅱ 1998(平成10)年版、朋文出版、2000年8月)
- 豊永聡美「中世における天皇と音楽-御師について-(下)」(『東京音楽大学』研究紀要』第19号、1995年12月→学術文献刊行会編『日本史学年次別論文集』中世Ⅱ 1995(平成7)年版、朋文出版、1997年9月)→「音楽の御師-鎌倉後期~南北朝期-」(同氏『中世の天皇と音楽』、第2部第2章、吉川弘文館、2006年12月)
- 豊永聡美『中世の天皇と音楽』(吉川弘文館、2006年12月)
- 橋本芳和「花園天皇と管絃(I)(II)」(『政治経済史学』第400号~第401号、1999年12月~2000年1月)

## K. 絵画・肖像

### 絵 画

- 荻野三七彦「花園天皇と御絵画(上)(下)」(『歴史と地理』第26巻第3号~第4号、1930年9月~10月)
- 荻野三七彦「曼殊院の『東北院歌合絵巻』」(『美術研究』第27号、1934年3月→同氏『日本古文書学と中世文化史』吉川弘文館、1995年2月)
- 森 暢「花園天皇と絵画」(『禅文化』第15・第16合併号、1959年4月)
- 徳川義宣「『歴代宸記』・『伏見天皇宸記』・『花園天皇宸記』に見られる美術・工芸・芸能史料の検討」・「美術・工芸・遊芸関係記事抜萃」・「項目索引」(『金鯨叢書 史学美術史論文集』第16輯、徳川黎明会・思文閣出版、1989年10月)

### 肖 像

- 熊谷宣夫「大和絵肖像画について 其三」(『国華』第442号、1927年9月)
- 栗野秀穂「似絵の名人豪信法印の研究(上)(中)」(『史林』第14巻第3号~第4号、1929年7月~10月)\* (下) 見えず
- 裏辻憲道「豪信の似絵に就いて」(『画説』第12号、1937年12月)
- 玉村竹二「花園天皇宸影略考」(『肇国精神』第4巻第7号、1944年7月→同氏『日本禅宗史論集』上巻、学芸書蹟篇、思文閣出版、1976年8月)
- 森 暢「花園天皇の御影について」(『禅学研究』第51号、1961年1月)→「花園天皇影について」(同氏『鎌倉時代の肖像画』みすず書房、1971年10月)
- 寺田 透「花園院像」(『芸術新潮』第25巻第10号、1974年10月)
- 平林盛得「天子撰関御影と公家列影図-所収人名を中心として-」(宮次男編『新修日本絵巻物全集』第26巻 天子撰関御影・公家列影図・中殿御会図・隨身庭騎絵巻、角川書店、1978年9月)
- 村井康彦「列影図巻とその時代」(宮次男編『新修日本絵巻物全集』第26巻 天子撰関御影・公家列影図・中殿御会図・隨身庭騎絵巻、角川書店、1978年9月)

- 宮島新一「天皇と貴族の肖像画」（同氏『肖像画』、第3、日本歴史叢書50、吉川弘文館、1994年11月）
- 橋本 治「ひらがな日本美術史 その29 似絵というもの-藤原豪信筆『花園天皇像』-」（『芸術新潮』第47編第4号、1996年4月→同氏『ひらがな日本美術史』第2巻、新潮社、1997年8月）

## L. 住 宅

- 鎌田禪商「花園法皇と萩原殿」（『禅宗』第47巻第11号、1939年11月）
- 藤岡通夫「鎌倉時代における内裏」（同氏『京都御所』、第1篇第2章、彰国社、1956年7月→新訂版、中央公論美術出版、1987年10月）
- 川上 貢「両統迭立期（鎌倉後期）における内裏と院御所の研究序論」（『日本建築学会論文集』第53号、1956年7月）→「序論」（同氏『日本中世住宅の研究』、第1編第1章、墨水書房、1967年10月→新訂版、中央公論美術出版、2002年5月）
- 川上 貢「持明院殿の沿革-持明院殿について、その1-」・「持明院殿の施設-持明院殿について、その2-」・「持明院殿の位置-持明院殿について、その3-」（『日本建築学会研究報告』第36号、1956年12月）→「持明院殿の考察」（同氏『日本中世住宅の研究』、第2編第2章、墨水書房、1967年10月→新訂版、中央公論美術出版、2002年5月）
- 川上 貢「伏見殿について」（『日本建築学会論文報告集』第56号、1957年6月）→「伏見殿の考察」（同氏『日本中世住宅の研究』、第2編第3章、墨水書房、1967年10月→新訂版、中央公論美術出版、2002年5月）
- 川上 貢「常盤井殿の建築」・「二条富小路内裏について」（『日本中世住宅の研究』、第1編第4章・第6章、墨水書房、1967年10月→新訂版、中央公論美術出版、2002年5月）
- 橋本義彦「里内裏沿革考」（山中裕編『平安時代の歴史と文学』歴史編、吉川弘文館、1981年11月→同氏『平安貴族』、平凡社選書97、平凡社、1986年8月）

- 飯淵康一「行幸時に於ける寝殿造の出入口について-院御所、女院御所への場合-」（『日本建築学会計画系論文報告集』第402号、1989年8月）→「行幸時に於ける貴族住宅の出入口-院御所、女院御所への場合-」（同氏『平安時代貴族住宅の研究』、第5章第2節、中央公論美術出版、2004年2月）
- 飯淵康一「寝殿造の出入口について-院の御幸時の用法-」（『日本建築学会計画系論文報告集』第477号、1995年11月）→「院の御幸時に於ける貴族住宅の出入口」（同氏『平安時代貴族住宅の研究』、第5章第3節、中央公論美術出版、2004年2月）
- 飯淵康一「内裏様式里内裏住宅の空間的秩序」（同氏『平安時代貴族住宅の研究』、第3章第1節、中央公論美術出版、2004年2月）
- 近藤成一「内裏と院御所」（五味文彦編『中世を考える 都市の中世』吉川弘文館、1992年11月）
- 詫間直樹「花園天皇」（同氏編『皇居行幸年表』続群書類従完成会、1997年12月）
- 鋤柄俊夫「京都-鳥羽・白河そして持明院-」（『季刊』考古学』第85号、2003年11月）

## M. 家 族

- 伏見天皇
- 村田正志「久我侯爵家伏見天皇宸翰の解説」（『国史学』第13号、1932年11月）
- 和田英松「伏見天皇」（同氏『皇室御撰之研究』明治書院、1933年4月→復刻版、国書逸文研究会、1986年7月）
- 佐佐木信綱「伏見天皇と永福門院」（同氏『国文学の文献学的研究』岩波書店、1935年7月）
- 赤松俊秀「京都妙蓮寺蔵後深草天皇宸翰御消息に就いて」（『史林』第24巻第2号、1939年4月）→「妙蓮寺蔵の伏見天皇宸翰法華経」（同氏『京都寺史考』、仏教史学研究双書、法蔵館、1972年9月）

- 赤松俊秀「伏見天皇宸翰御消息（久枝氏蔵）に就いて」（『史蹟名勝天然紀念物』第18集第1号、1943年1月）
- 次田香澄「伏見天皇宸筆御集の研究」（『文学』第7巻第6号、1939年6月）
- 次田香澄「伏見院の書跡と書風-付・新出の広沢切その他-」（『大東文化大学』日本文学研究』第26号、1987年1月）
- 羽田秀典「鳥取大雲院蔵 伏見天皇宸翰に就いて」（『史林』第27巻第1号、1942年1月）
- 国民精神文化研究所編『伏見天皇御製集』（国民精神文化文献27、国民精神文化研究所、1943年5月）
- 佐佐木治綱『伏見天皇御製の研究』（人文書院、1943年12月）
- 小松茂美「伏見天皇と宸翰様」（同氏『日本書流全史』上、VI・3、角川書店、1970年12月）
- 岩佐美代子「伏見院と永福門院」（『周辺』第1巻第6号、1972年7月）→「伏見院と永福門院-愛情生活と歌-」（同氏『京極派歌人の研究』、第2章第4節、笠間書院、1974年4月）
- 岩佐美代子「伏見院の春の歌-正安の政変をめぐる-」（『国語と国文学』第50巻第4号、1973年4月）→「伏見院の春の歌-玉葉集への開眼-」（同氏『京極派歌人の研究』、第2章第1節、笠間書院、1974年4月）
- 岩佐美代子『あめつちの心-伏見院御歌評釈-』（笠間書院、1979年9月）
- 岩佐美代子「伏見院の思想」（同氏『京極派和歌の研究』、第1編第2章、笠間叢書212、笠間書院、1987年10月）
- 岩佐美代子「嘉元元年伏見院三十首歌考-新資料紹介と歌人別集成-」（『鶴見大学紀要 第1部 国語・国文学篇』第27号、1990年3月）
- 井上宗雄「中世歌人と書 伏見院（1265～1317）」（『淡交』第33巻第7号、1979年7月）
- 井上宗雄「伏見院と後伏見院」（『日本古典文学会会報』第76号、1979年11月）
- 森 茂暁「『恒明親王立坊事書案』について」（田村圓澄先生古稀記念会編『東アジアと日本』歴史篇、吉川弘文館、1988年12月）→「皇統の対立と幕府の対応-『恒明親王立坊事書案 徳治二年』をめぐる

て-」（同氏『鎌倉時代の朝幕関係』、第2章第3節、思文閣史学叢書、思文閣出版、1991年6月）

- 米田雄介「鎌倉時代の天皇の日記 伏見天皇」（同氏『歴代天皇の記録』、続群書類従完成会、1992年5月）
- 森 幸夫「平頼綱と公家政権」（『三浦古文化』第54号、1994年6月→学術文献刊行会編『日本史学年次別論文集』中世I 1994（平成6）年版、朋文出版、1996年7月）
- 林 葉子「伏見院政の展開過程」（『政治経済史学』第344号、1995年2月）
- 別府節子「『伏見院三十首歌切』について」（『出光美術館研究紀要』第2号、1996年7月）
- 別府節子「鎌倉時代後期の古筆切資料-初期京極派を中心に-」（『出光美術館研究紀要』第9号、2003年12月）
- 小川剛生「伏見院・永福門院」（西沢正史ほか編『日本古典文学研究史大事典』勉誠社、1997年11月）
- 田淵句美子「伏見院と永福門院-和歌史からの素描-」（『国文学 解釈と教材の研究』第42巻第13号、1997年11月）
- 石澤一志「伏見院と永福門院の贈答-新出歌の紹介-」（『国文鶴見』第34号、1999年12月）
- 伊藤伸江「伏見院歌と帝王意識-抱え込む後鳥羽院の影-」（『日本文学』第49号第12号、2000年12月）→「伏見院の和歌と帝王意識」（同氏『中世和歌連歌の研究』、第1章第3節、笠間書院、2002年1月）
- 後伏見天皇
- 和田英松「後伏見天皇」（同氏『皇室御撰之研究』明治書院、1933年4月→復刻版、国書逸文研究会、1986年7月）
- 辻彦三郎「後伏見上皇院政謙退申出の波紋-西園寺実兼の一消息をめぐる-」（竹内理三博士還暦記念会編『律令国家と貴族社会』吉川弘文館、1969年6月→同氏『藤原定家明月記の研究』、第4編第1章、吉川弘文館、1977年5月）
- 山本信吉「新出の後伏見天皇宸翰御書状（五通）」（『日本歴史』第379号、

1979年12月)

- 鹿目俊彦「勅撰和歌集撰集資料としての『後伏見院宸筆十五番歌合』(『日  
本大学豊山中・高等学校]紀要』第18号、1988年3月)  
相馬万里子「淵酔記断簡 正和二年」(『書陵部紀要』第41号、1990年3月)  
米田雄介「鎌倉時代の天皇の日記 後伏見天皇」(同氏『歴代天皇の記録』  
続群書類従完成会、1992年5月)

### 光 厳 天 皇

- 粟野秀穂「光厳上皇(上)」(『歴史と地理』第10巻第4号、1922年10月)\* (下  
見えず  
中村直勝「量仁親王の御降誕」(『歴史と地理』第21巻第3号、1928年3月→同  
氏『吉野朝史』、後篇第1章第4節、星野書店、1935年6月→『中村直  
勝著作集』第3巻 南朝の研究、淡交社、1978年4月)  
中村直勝『光厳天皇』(淡交新社、1961年4月→『中村直勝著作集』第6巻 歴  
代天皇紀、淡交社、1978年8月)  
和田英松「光厳天皇」(同氏『皇室御撰之研究』明治書院、1933年4月→復刻版、  
国書逸文研究会、1986年7月)  
赤松俊秀「光厳天皇宸翰に就いて-大徳寺蔵伝後醍醐天皇宸賛大燈国師像  
の研究-」(『清閑』第15冊、1943年3月)  
赤松俊秀・上横手雅敬・國枝利久編『光厳天皇遺芳』(常照皇寺、1964年8  
月)  
\* 赤松俊秀「光厳天皇宸翰」(『光厳天皇遺芳』)→「光厳天皇について-常  
照皇寺の開基-」・「光厳天皇宸翰集」(同氏『京都寺史考』、仏教  
史学研究双書、法蔵館、1972年9月)  
\* 上横手雅敬「光厳天皇御記」(『光厳天皇遺芳』→同氏『鎌倉時代政治史研究』、  
第3章2、吉川弘文館、1991年6月)  
原田芳起「光厳院御集と花園院御集」(『史学 文学』第3巻第1号、1960年  
6月→同氏『探究日本文学-中古・中世編-』、第2部、風間書房、  
1979年12月)  
原田芳起「翻刻書陵部蔵花園院御製(光厳院御集)」(『樟蔭国文学』第2号、

1964年11月)→「光厳院御集ならびに拾遺」(同氏『探究日本文  
学-中古・中世編-』風間書房、1979年12月)

- 安田章生「光厳院」(『甲南大学文学会論集』第39号、1968年11月→同氏『歌の  
深さ-古典和歌・現代短歌-』創元社、1971年11月)  
森 茂暁「光厳上皇の院政について」(『九州史学』第73号、1982年4月)→  
「光厳上皇院政」(同氏『南北朝期公武関係史の研究』、第3章第1節、  
文献出版、1984年6月)  
吉村貞司「光厳天皇(上)(中)(下)」(『禅文化』第107号〜第109号、1983年  
1月〜7月)  
永井義憲「光厳天皇宸筆『山王七社法楽和歌』について」(『大妻国文』第18  
号、1987年3月)  
米田雄介「南北朝時代の天皇の日記 光厳天皇」(同氏『歴代天皇の記録』  
続群書類従完成会、1992年5月)  
岩佐美代子「光厳天皇-その人と歌-」(『駒沢国文』第30号、1993年2月→  
同氏『宮廷に生きる-天皇と 女房と-』、古典ライブラリー8、笠間  
書院、1997年6月)  
岩佐美代子『光厳院御集全釈』(私家集全釈叢書27、笠間書院、2000年11月)  
國枝利久「京極派歌人の世界-光厳院の和歌-」(『佛教大学]文学部論集』  
第84号、2000年3月→学術文献刊行会編『国文学年次別論文集』中  
世I 平成12(2000)年、朋文出版、2002年6月)  
飯倉晴武『地獄を二度も見た天皇 光厳院』(歴史文化ライブラリー147、吉川  
弘文館、2002年12月)  
浅井伸一「光厳天皇全歌集総索引(1)(2)」(『大阪産業大学人間環境論集』  
第3号、2004年6月、第5号、2006年3月)  
  
永 福 門 院  
久松潜一「永福門院」(『国語と国文学』第6巻第10号、1929年10月→同氏『日  
本文学の精神』大日本図書、1937年9月/同氏『国文学への道』、国  
語国文学研究叢書1、桜楓社、1958年10月)  
谷 宏「永福門院に就いて-『中将』といふ御隠名-」(『歴史と国文学』

第27巻第2号、1942年8月)

佐佐木治綱『永福門院』(生活社、1943年5月)

斎藤清衛「時代転回期に立つ一歌人の相-持明院派の場合-」(『東京都立大学』人文学報』第13号、1956年2月)

前田妙子「永福門院」(久松潜一ほか編『日本歌人講座』第4巻 中世の歌人Ⅱ、弘文堂、1961年3月)

岩佐美代子「永福門院の後半生-花園天皇宸記を通して-」(『国語国文』第35巻第8号、1966年8月)→「永福門院の後半生-花園院宸記から竹むきが記へ-」(同氏『京極派歌人の研究』、第3章第2節、笠間書院、1974年4月)

岩佐美代子「花園院の永福門院批判」(『国語と国文学』第43巻第12号、1966年12月)→「花園院の永福門院批判-風雅集への開眼-」(同氏『京極派歌人の研究』、第3章第1節、笠間書院、1974年4月)

岩佐美代子「永福門院百番御自歌合の成立と性格」(『和歌文学研究』第22号、1968年1月→同氏『京極派歌人の研究』、第2章第5節、笠間書院、1974年4月)

岩佐美代子『永福門院-その生と歌-』(笠間選書54、笠間書院、1976年5月→改題修訂版『永福門院-飛翔する南北朝女性歌人-』、古典ライブラリー9、2000年10月)

岩佐美代子「永福門院の消息二点について」(『国文鶴見』第17号、1982年12月)→「永福門院の消息二点」(同氏『京極派和歌の研究』、第3編第6章、笠間叢書212、笠間書院、1987年10月)

岩佐美代子「新出写本『永福門院百番御自歌合』-考察と翻刻-」(『和歌文学研究』第59号、1989年11月)

岩佐美代子「評釈 永福門院門院百番御自歌合 上・中・下」(『鶴見大学紀要』第1部 国語・国文学篇』第30号～第32号、1993年3月～1995年3月)

岩佐美代子『永福門院百番自歌合全釈』(歌合・定数歌全釈叢書1、風間書房、2003年1月)

伊原 昭「永福門院と玉葉・風雅の女歌人」(久松潜一編『日本女流文学史』

古代中世篇、同文書院、1969年3月)

鹿目俊彦「永福門院略年譜」(『日本大学豊山学園』紀要』第4号、1969年10月)

次田香澄「永福門院」(和歌文学会編『和歌文学講座』第7巻 中世・近世の歌人、桜楓社、1970年7月)

福田秀一「永福門院と京極派」(同氏『中世和歌史の研究』、第2篇第7章Ⅱ、角川書店、1972年3月)

竹西寛子『式子内親王・永福門院』(日本詩人選14、筑摩書房、1972年7月)

馬場あき子「永福門院・子」(梅原猛監修『古典の中の女流歌人』下巻、教育出版センター、1977年10月)

小野正弘「『永福門院百番御自歌合』各句索引」(『鶴見大学紀要 国語・国文学篇』第30号、1993年3月)

吉海直人「『永福門院百番御自歌合』の影印と解題」(『同志社女子大学』日本語日本文学』第10号、1998年10月)

#### 広義門院

岩佐美代子「中世女流日記研究への一提言」(『国文鶴見』第19号、1984年12月→学術文献刊行会編『国文学年次別論文集』中世Ⅱ 昭和59(1984)年、朋文出版、1986年2月/同氏『宮廷女流文学読解考』中世編、笠間叢書324、笠間書院、1999年3月)

橋本芳和「広義門院西園寺寧子の基礎的考察-入内及び女院号宣下の背景-」(『政治経済史学』第260号、1987年12月)

橋本芳和「『花園天皇宸記』に見たる広義門院西園寺寧子(Ⅰ)～(Ⅴ)」(『政治経済史学』第300号、1991年6月、第344号、1995年2月、第357号、1996年3月、第358号、1996年4月、第361号、1996年7月)

今谷 明「観応三年広義門院の『政務』について」(大山喬平教授退官記念会編『日本国家の史的特質 古代・中世』思文閣出版、1997年5月→同氏『室町時代政治史論』塙書房、2000年5月)

今谷 明「中世を人はどのように生きたか-中世奇人列伝-(5)(6) 広義門院(西園寺寧子)(上)(下)」(『草思』第2巻第9号～第10号、

2000年9月～10月) → 「幕府がひれ伏した女院 広義門院」(同氏『中世奇人列伝』草思社、2001年11月)

## N. 荘園

八代國治「桃山と皇室御領」(『歴史地理』第20巻第4号、1912年10月) → 「伏見御領の研究」(同氏『国史叢説』吉川弘文館、1925年5月)

八代國治「長講堂領の研究」(同氏『国史叢説』吉川弘文館、1925年5月)

中村直勝「室町院領(上)(中)(下)」(『歴史と地理』第33巻第1号～第3号、1934年1月～3月→同氏『吉野朝史』、後篇第4章第1節、星野書店、1935年6月→『中村直勝著作集』第3巻 南朝の研究、第5章第1節、淡交社、1978年4月)

帝室林野局「両統迭立時代の御料地」(同局編『御料地史稿』、第4章、帝室林野局、1937年12月)

市村咸人「鎌倉時代における佐久伴野庄の伝領」(『信濃』〈第1次〉第7巻第5号、1938年5月)

信濃教育会「佐久伴野荘」(同会編『建武中興を中心としたる 信濃勤王史攷』、第4篇第3章第12節、信濃毎日新聞株式会社、1939年1月→分冊修訂版、信濃史学会、1977年12月～1978年7月)

福田以久生「『御領目録』の送進について」(『古文書研究』第24号、1985年9月)

近藤成一「鎌倉幕府の成立と天皇」(永原慶二ほか編『講座 前近代の天皇』第1巻 天皇権力の構造と展開 その1、青木書店、1992年12月)

伴瀨明美「院政期～鎌倉期における女院領について-中世前期の王家の在り方とその変化-」(『日本史研究』第374号、1993年10月)

伴瀨明美「東寺に伝来した室町院遺領相論関係文書について」(『史学雑誌』第108編第3号、1999年3月)

伴瀨明美「鎌倉時代の女院領に関する新史料-『東寺観智院金剛藏聖教』第二八〇箱二一〇号文書について-」(『史学雑誌』第109編第1号、2000年1月)

藤井雅子「両統迭立期における皇統領の『管領』と『政務』」(『史艸』第35号、1994年11月→学術文献刊行会編『日本史学年次別論文集』中世I 1994(平成6)年版、朋文出版、1996年7月)

金井静香「公家領安堵の変遷」(『史林』第78巻第3号、1995年3月→同氏『中世公家領の研究』、第I部第1章、思文閣史学叢書、思文閣出版、1999年2月)

金井静香「再編期王家領荘園群の存在形態-鎌倉後期から南北朝期まで-」(同氏『中世公家領の研究』、第II部第3章、思文閣史学叢書、思文閣出版、1999年2月)

金井静香「鎌倉後期～南北朝期における荘園領主の変容-本所と中世国家-」(『日本史研究』第535号、2007年3月)

加藤正俊「河内国仁和寺荘と観音寺-初期の妙心寺領について-」(『禅文化』第174号、1999年10月→同氏『関山慧玄と初期妙心寺』、第13章、思文閣出版、2006年2月)

## O. その他

陵墓・医学・風俗

上野竹次郎「花園院天皇十楽院上陵」(同氏編『山陵』下、山陵崇敬会、1925年7月→合本新訂版、名著出版、1989年2月)

櫻井 秀「掩韻の遊に就て」(『風俗研究』第2号、1916年5月→同氏『風俗史の研究』宝文館、1929年9月)

櫻井 秀「室町以前の齒科医界について」(『歴史地理』第45巻第6号、1925年6月→同氏『時代と風俗』宝文館、1931年6月)

櫻井 秀『鎌倉時代の風俗』(長坂金雄編『日本風俗史講座』第2巻、雄山閣出版、1929年7月→復刻版、1973年8月)

服部敏良「花園院宸記に現われる花園天皇の病歴」(同氏『鎌倉時代医学史の研究』、後編第2章第4節、吉川弘文館、1964年11月)

田口和夫「研究十二月往来〈125〉右左右の舞-『花園天皇宸記』から-」(『鍊仙』第407号、1992年11月)

戸出一郎「『花園天皇宸記』に表れる花園天皇の口腔並に顔面の疾病について」(『日本医学雑誌』第40巻第2号、1995年5月)

#### ホトトギスの迷信

太田晶二郎「ホトトギスと史料」(『日本歴史』第111号、1957年9月→『太田晶二郎著作集』第3冊、吉川弘文館、1992年3月)

芳賀幸四郎「郭公の声」(『日本歴史』第475号、1987年12月)

佐伯有清「杜鵑の声を厠で聞けば-古代中世の中国と日本の俗信-」(同氏編『日本古代中世の政治と文化』吉川弘文館、1997年12月)

#### 西園寺家(実兼・公衡)

和田英松「春日権現験記に就いて」(『国華』第328号、1917年9月→同氏『国史国文之研究』雄山閣、1926年2月)

近藤喜博「西園寺公衡書写の不空羂索神呪経」(『国華』第725号、1952年8月)

近藤喜博「山王霊験記とその成立年代」(『国華』第771号～第772号、1956年6月～7月)

近藤喜博「春日権現験記の成立」(『日本歴史』第126号、1958年12月)

龍 肅「西園寺家の興隆とその財力」・「後嵯峨院の素意と関東申次」(同氏『鎌倉時代』下巻、春秋社、1957年12月)

永島福太郎「玄奘三蔵絵の制作環境-詞書書写年代の推定を中心として-」(源豊宗編『日本絵巻物全集』第14巻 玄奘三蔵絵(法相宗秘事絵詞)、角川書店、1962年5月→新修版第15巻、1977年9月)

永島福太郎「『春日権現験記絵』の成立とその時代」(野間清六編『日本絵巻物全集』第15巻 春日権現験記絵、角川書店、1963年4月→新修版第16巻、1978年1月)

橋本不美男「為兼評語等を含む和歌資料-西園寺実兼をめぐって-」(『日本大学』語文』第17号、1964年3月→同氏『王朝和歌-資料と論考-』、第Ⅲ部第3章、笠間叢書253、笠間書院、1992年8月)

川上 貢「西園寺家の今出川殿」(同氏『日本中世住宅の研究』、第3編第3章、

墨水書房、1967年10月→新訂版、中央公論美術出版、2002年5月)

川上 貢「西園寺家の北山殿」(同氏『新訂』日本中世住宅の研究』、第3編第4章、中央公論美術出版、2002年5月)

岩佐美代子「西園寺実兼-とはずがたり作者の女兒をめぐって-」(同氏『京極派歌人の研究』、第2章第2節、笠間書院、1974年4月)

河野芳夫「西園寺実兼簡略年表」(『古典遺産』第27号、1977年7月)

荻野三七彦「琵琶の宗家西園寺家(上)(下)」(『淡交』第35巻第5号～第6号、1981年5月～6月)

荻野三七彦「西園寺の妙音天像-『西園寺家と琵琶』の一節-」(『古文書研究』第17・18合併号、1981年12月→同氏『日本古文書学と中世文化史』吉川弘文館、1995年2月)

小島さえ子「春日権現験記絵考」(『史窓』第40号、1983年3月)

磯 水絵「琵琶秘曲伝授作法の成立と背景」(『東洋音楽研究』第48号、1983年9月→同氏『説話と音楽伝承』、第1章、研究叢書259、和泉書院、2000年12月)

下坂 守「『山王霊験記』の成立と改変」(『学叢』第11号、1989年3月)

中野達平「神宮法楽大般若経蔵について」(地方史研究協議会編『三重-その歴史と交流-』雄山閣出版、1989年10月)

中野達平「西園寺実兼自筆勘返状について」(『季刊 ぐんしょ』第26号、1994年10月)

網野善彦「中世前期の瀬刀内海交通」(同氏ほか編『海と列島文化』第9巻 瀬戸内の海人文化、小学館、1991年3月)

網野善彦「西園寺家とその所領」(『国史学』第146号、1992年3月→学術文献刊行会編『日本史学年代別論文集』中世Ⅱ 1992(平成4)年版、朋文出版、1994年6月)

森 茂暁「関東申次をめぐる朝幕交渉-西園寺実氏以降-」(同氏『鎌倉時代の朝幕関係』、第1章第3節、思文閣史学叢書、思文閣出版、1991年6月)

平林盛得「伏見宮旧蔵部類記と西園寺公衡」(『書陵部紀要』第43号、1992年3月→学術文献刊行会編『日本史学年代別論文集』中世Ⅰ 1992(平

- 成4)年版、朋文出版、1994年5月)
- 林 謙「花押覚書-研究の周辺-」(『歴史と地理』第442号、1992年6月、第445号、1992年9月→学術文献刊行会編『日本史学年次別論文集』中世I 1992(平成4)年版、朋文出版、1994年5月)
- 溝口正人「平安・室町時代貴族住宅の『二階』について」(『日本建築学会計画系論文集』第457号、1994年3月)
- 林 葉子「西園寺公衡外孫珣子内親王生誕と持明院皇統-『広義門院御産愚記』を中心素材として-」(『政治経済史学』第336号、1994年6月)
- 石澤一志「西園寺実兼 年譜」(『国文鶴見』第30号、1995年12月)
- 石澤一志「伝西園寺実兼『書状切』について-資料の紹介と考察-」(『国文鶴見』第31号、1996年12月)
- 石澤一志「『歌人』としての西園寺実兼」(『鶴見日本文学』第1号、1997年3月)
- 石澤一志「西園寺実兼年譜 増補-付伝記小考-」(『国文鶴見』第32号、1997年12月)
- 石澤一志「西園寺実兼 全歌集」(『鶴見日本文学』第2号、1998年3月)
- 石澤一志「『西園寺実兼 全歌集』各句索引」(『鶴見日本文学』第3号、1999年3月)
- 石澤一志「『実兼集』の成立とその性格」(『和歌文学研究』第87号、2003年12月)
- 佐藤真人「『山王絵詞』と『広義門院御産日吉十禅師冥助記』」(菅原信海編『神仏習合思想の展開』汲古書院、1996年1月)
- 別府節子「実兼集切の考察」(『出光美術館研究紀要』第4号、1998年9月)
- 別府節子「鎌倉時代後期の古筆切資料-京都国立博物館蔵「伏見天皇宸翰御歌集」(五十五首)について-」(『出光美術館研究紀要』第10号、2004年12月)
- 徳仁親王・木村真美子「西園寺家所蔵『公衡公記』」(『学習院大学史料館所蔵史料目録』第15号 西園寺家文書、学習院大学史料館、1998年11月→『学習院大学』史料館紀要』第10号、1999年3月)

- 徳仁親王・木村真美子「忘れられた車図-陽明文庫所蔵『納言大将車絵様』および『車絵』について-」(『学習院大学』史料館紀要』第12号、2003年3月)
- 木村真美子「中世の院御厩司について-西園寺家所蔵『御厩司次第』を手がかりに-」(『学習院大学』史料館紀要』第10号、1999年3月)
- 高橋秀樹「家と芸能-『琵琶の家』西園寺家をめぐって-」(五味文彦編『芸能の中世』吉川弘文館、2000年3月)
- 本郷和人「外戚としての西園寺氏」(『季刊 ぐんしょ』第51号、2001年1月)
- 本郷和人「西園寺氏再考」(『日本歴史』第634号、2001年3月)
- 相馬万里子「琵琶における西園寺実兼」(福島和夫編『中世音楽史論叢』、日本史研究叢刊13、和泉書院、2001年11月)
- 有馬頼底監修・鹿苑寺編『鹿苑寺と西園寺』(思文閣出版、2004年4月)
- 末柄 豊「『春日権現験記絵』の奉納をめぐって」(『日本歴史』第695号、2006年4月)

#### 花園側近

- 萩野懐之「日野資朝卿年譜」(『史学界』第5巻第4号〜第5号、1903年4月〜5月→萩野由之編『萩野懐之遺稿』私家版、1921年8月)
- 佐々木八郎『日野資朝卿』(富山房、1940年6月)
- 井上良信「日野資朝小論-南北朝時代公家動向の一側面-」(赤松俊秀教授退官記念事業会編『赤松俊秀教授退官記念 国史論集』赤松俊秀教授退官記念事業会、1972年12月)
- 佐藤八重子・中村雅子「正親町公蔭年譜-後期京極派における正親町家の人々-」(『立教大学』日本文学』第36号、1976年7月)
- 池田美千子「衣紋にみる高倉家-大炊御門家から高倉家へ-」(『史学雑誌』第111編第2号、2002年2月)
- #### 女房日記
- 和田英松「竹むきが記に就いて」(『史学雑誌』第22編第6号、1911年6月→同氏『国史説苑』明治書院、1939年3月)

- 岩佐美代子『『竹むきが記』私注（上巻）（下巻）』（『国語国文』第41巻第2号～第3号、1972年2月～3月）→『『竹むきが記』読解考 2、上巻考／3、下巻考』（同氏『宮廷女流文学読解考』中世編、笠間叢書324、笠間書院、1999年3月）
- 岩佐美代子『『竹むきが記』私注（続編）-長講堂供花と作者の女房経歴について-』（『国語国文』第47巻第10号、1978年10月）→『『竹むきが記』読解考 1、作者名子の女房経歴』（同氏『宮廷女流文学読解考』中世編、笠間叢書324、笠間書院、1999年3月）
- 岩佐美代子「とはずがたり読解考-とりつくる定朝堂・さきの斎宮・みやうじやう院どの-」（『国語国文』第52巻第8号、1983年8月）→『『とはずがたり』読解考 2、とりつくる定朝堂／3、さきの斎宮／4、みやうじやう院どの』（同氏『宮廷女流文学読解考』中世編、笠間叢書324、笠間書院、1999年3月）
- 岩佐美代子「天皇の一生と女房日記文学」（『国文鶴見』第25号、1990年12月）→同氏『宮廷女流文学読解考』総論 中古編、笠間叢書323、笠間書院、1999年3月）
- 伊藤 敬「室町文学史私注 2 序の章-『竹むきが記』の周辺-」（『藤女子大学』国文学雑誌』第21号、1977年4月）
- 徒然草
- 穴山孝道「花園院御日記について-徒然草研究のために-」（『九州大学』文学論輯』第7号、1960年3月）
- 白石大二「花園天皇宸記と徒然草-発想の継承、時代思潮、当代語をめぐって-」（『早稲田大学教育学部』学術研究-国語・国文学編-』第24号、1975年12月）
- 岩佐美代子「花園天皇宸記と徒然草」（『周辺』第5巻第5号、1976年12月）
- 岩佐美代子「日記の真髓 13 つれづれなるままに」（同氏『宮廷文学のひそかな楽しみ』、文春新書202、文藝春秋、2001年10月）
- 久保田淳「徒然草と時代思潮」（『国文学 解釈と鑑賞』第62巻第11号、1997年11月）

## P. 欧文論文

Western Studies of Emperor Hanazono:

- Bohner, Herman. "Hanazono tennō, 'Mahnung an den Kronprinzen,'" *Taisho wo Imashimuru no sho.* Monumenta Nipponica, 1 (1938), pp. 317-349.
- Goble, Andrew Edmund. "Social Change, Knowledge and History: Hanazono's Admonitions to the Crown Prince." *Harvard Journal of Asiatic Studies*, 55.1 (1995), pp. 61-128.
- Goble, Andrew Edmund. "Truth, Contradiction and Harmony in Medieval Japan: Emperor Hanazono (1297-1348) and Buddhism." *Journal of the International Association of Buddhist Studies*, 12.1 (1989), pp. 21-63.

The following also have information about Hanazono and his diary:

- Goble, Andrew Edmund. *Kenmu: Go-Daigo's Revolution*. Cambridge, Harvard University Press, 1996.
- Goble, Andrew Edmund. "Visions of an Emperor." In *The Origins of Japan's Medieval World*. pp. 113-137. Ed. Jeffrey P. Mass. Stanford: Stanford University Press, 1997.

〔付 記〕

本目録は、花園天皇日記研究会（花園大学国際禅学研究所主催）の参考資料として坂口が作成した文献一覧を土台とし、坂口・芳澤両人で増訂を加えたものである。出来る限り採録の範囲を広く取り、「持明院統研究文献目録」の性格を併せ持つよう配慮した。但し遺漏少なからず、誤記もあるかと思う。また、戦前に発刊された書籍などについては一部確認に至らなかったものもある。諸賢の批正を賜れば幸いである。なお、本目録は花園大学国際禅学研究所のウェブサイト上に公開する予定である。最後に、欧文論文をご教示くださったアンドリュー・ゴープル先生、文献の収集・確認にあたってご協力いただいた米澤隼人氏に謝意を表す。